

奈良市では少子化の進行や共働き家庭の増加等による教育・保育ニーズの多様化等を背景に多くの課題を抱えています。これらの課題を解決するため、市立幼保施設の統合及び民間移管を行い、限られた財源・人材をより効率的に投入するとともに民間活力を最大限活用することで、「すべての子どもたちが今を幸せに生き、夢と希望をもって成長することができるまち」の実現に向けて就学前児童のよりよい教育・保育環境の整備を積極的に進めています。

奈良市幼保再編計画の概要

目標

- 適切な集団規模での教育・保育の実施
- 希望される幼稚園利用・保育所利用ニーズを踏まえた量の確保
- 多様化する保護者ニーズに応えることができるよう施設の運営管理の改善

背景

- 急激な少子化の進行
- 女性の社会進出
- 教育・保育ニーズの多様化

課題

- 市立幼稚園の過小規模化
- 保育所の待機児童の解消
- 市立幼保施設の老朽化
- 奈良市の厳しい財政状況
- 多様なニーズへの対応が困難

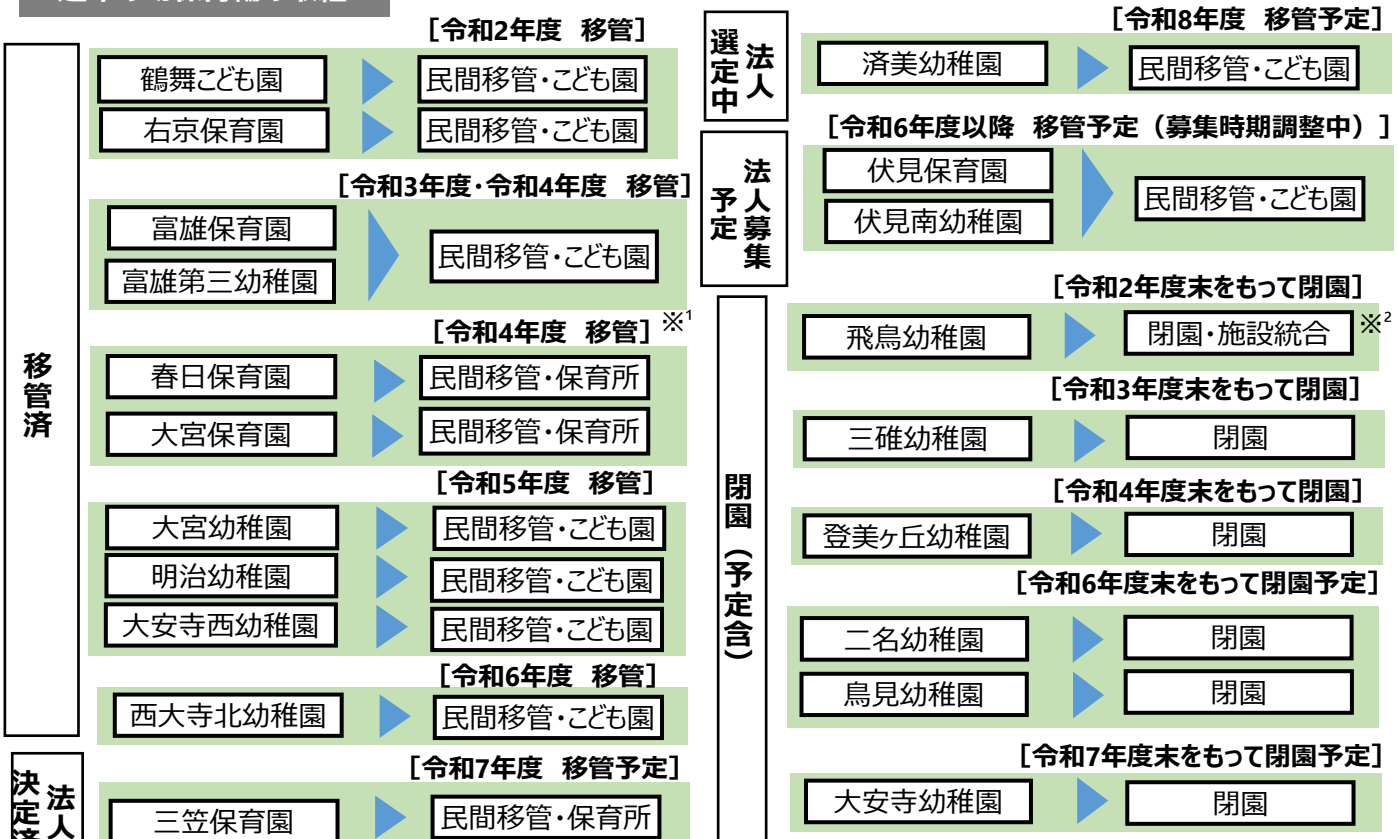
市立幼保施設の再編
(民間移管によるこども園への移行・閉園等)

幼保再編の取組について

奈良市では幼保再編計画に基づき、以下のとおり市立幼保施設の統合・再編の取組を行ってきました。

市立園	H24	R2	R3	R4	R5	R6	R7 (予定)
幼稚園	36園	16園	15園	13園	9園	8園	6園
保育所	18園	7園	6園	4園	4園	4園	3園
こども園	3園	18園	18園	18園	18園	18園	18園
民間移管園	0園	2園	3園	5園	8園	9園	10園

近年の幼保再編の取組



※1 富雄保育園・富雄第三幼稚園については、令和3年度に保育所として民間移管した富雄保育園との施設統合を伴うこども園移行
 ※2 飛鳥幼稚園については令和2年度末をもって閉園し、隣接する極楽坊保育園が極楽坊あすかこども園へ移行して、地域の1号認定の受け皿を担う。

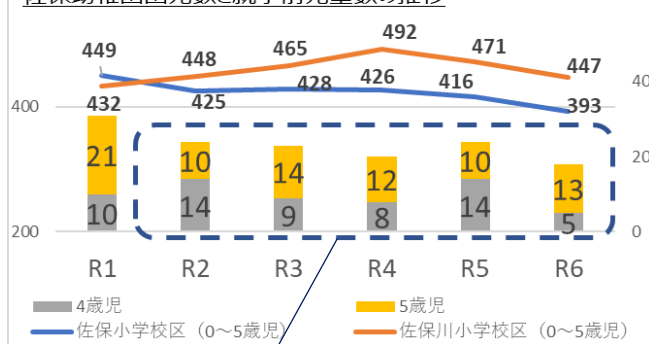
佐保幼稚園周辺の幼保施設について



佐保幼稚園の状況については、5月1日時点の令和6年度の園児数が合計18名となっており、令和2年度からは閉園基準（園児数30名未満）に該当している状況です。就学前児童数は年々減少しており、幼稚園の過小規模化が進んでいることから、適切な集団規模での教育・保育の提供が困難な状況であると考えています。

佐保幼稚園及び周辺地域の就学前児童状況について

佐保幼稚園園児数と就学前児童数の推移



閉園基準に該当

	令和6年度 (R6.4~R7.3)	令和7年度 (R7.4~R8.3)	令和8年度 (R8.4~R9.3)	令和9年度 (R9.4~R10.3)
4歳児 (H31.4.2~ R2.4.1生)	4歳児クラス	5歳児クラス	卒園	
3歳児 (R2.4.2~ R3.4.1生)		4歳児クラス	5歳児クラス	卒園
2歳児 (R3.4.2~ R4.4.1生)			4歳児クラス	5歳児クラス

佐保幼稚園の今後の方向性(案)

奈良市立佐保幼稚園については、令和10年3月末をもって閉園する方向を検討しています。

令和8年度				令和9年度				再編方針
運営主体	運営形態	施設名称	在籍児童	運営主体	運営形態	施設名称	在籍児童	
市	幼	佐保幼稚園	4歳児 5歳児	市	幼	佐保幼稚園	5歳児	閉園

- 当地域の1号認定こども（幼稚園利用）の受け皿として、（市）若草こども園に優先枠を設定する予定です。
- 今年度の未就園児クラス（2歳児）を利用する園児が卒園するまで（令和10年3月末まで）園を存続します。
- 周辺の私立幼保施設に地域の児童受入について協力をお願いします。